

自立活動（肢体不自由教育）

平成30年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第2次）

自立活動に関する科目（Ⅱ）

（問1～問6 全6問）

時間 9：30～11：10（100分）

（受験上の注意）

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は、表紙を除いて1ページです。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び解答用紙の汚れに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答は、論述式です。
- 4 解答用紙は、問題別に6枚あります。ホチキスの針は、はずさないでください。
別に下書用紙が1枚あります。
全ての用紙に、
 - ① 種目欄
受験する種目の□欄に✓を記入してください。
 - ② 受験番号欄
受験番号を記入してください。
 - ③ 氏名欄
氏名を記入してください。
- 5 解答は、問題と同じ番号の解答用紙に記入してください。
解答用紙のおもて面に書ききれない場合は、うら面に記入してください。
解答用紙の※欄は採点欄です。何も記入しないでください。
筆記用具は、HBの黒鉛筆を使用してください。
- 6 この試験の解答時間は、「始め」の合図があってから、100分です。
- 7 当該試験開始から終了までは、退出できません。ただし、用便や発病等やむを得ない場合には挙手をし、監督者の指示に従ってください。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、解答を直ちにやめ、解答用紙と下書用紙が回収されるまで、着席したままで待っていてください。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問1 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第1章総則には、「学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。」と記載されている。この点を踏まえ、自立活動の指導を計画し、実施するに当たって留意すべき点を述べなさい。

問2 血中酸素飽和度を学校現場で測定する必要があるのはどのような場合であるのか述べなさい。

問3 二分脊椎症児によく見られる症状や二次障害を五つあげ、それぞれ簡潔に説明しなさい。

問4 進行性筋ジストロフィー症の児童生徒は学齢期の中に病態が変化する。特に摂食・嚥下については誤嚥および誤飲の危険性が高くなる。この摂食・嚥下の想定される状況変化の経過と、その変化に対する工夫や留意点について述べなさい。

問5 股関節及び膝関節に拘縮・変形を生じやすい痙直型の脳性まひ児に対する自立活動の指導について述べなさい。

問6 特別支援学校(肢体不自由)に在籍する中学部2年生のレット症候群の女子。手を打ち合わせたりする常同行動があり、物や人に向かって手を伸ばすことは少ないが、じっと人の話を聞いたりテレビに注目したりすることはよく見られる。上下肢の動きのかたさは、小学部高学年より進行してきたため、中学生になる頃より階段や屋外での歩行時には手で支える援助が必要になっている。手掌で机上の面を叩いたりすることはできる。発語はないが、YESは「あい」という言葉、NOは顔を横に振ることで家族や慣れた教員には伝えることができる。理解言語は、「もうひとつ、もう少し」はわかるが、「大きい、小さい」はわからない(遠城寺式・乳幼児分析的発達検査では2:0歳)。

この生徒が、人とかかわる力を育むための自立活動の指導における指導目標を達成するために必要な自立活動の項目を選定した上で、それらを相互に関連付けた具体的な指導内容を述べなさい。その際、関連付けた項目を明らかにして述べなさい。